

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00617

研究課題名(和文) 日本近世思想史の見直しと国際共同研究の試み

研究課題名(英文) A New View of the History of Thought of Early Modern Japan: An Attempt at International, Cooperative Research

研究代表者

曽根原 理 (SONEHARA, SATOSHI)

東北大学・学術資源研究公開センター・助教

研究者番号：30222079

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,900,000円

研究成果の概要(和文)：日本近世思想は、長く儒学や国学を中心に検討されていた。しかし、実際には仏教や神仏習合思想など、宗教思想が大きな役割を果たしていたと考えられるようになってきた。その内実を解明するため、寺院資料の調査や、その成果に基づく国内、さらには国際学会での報告と討議を積極的に行った。その際に、可能な限り東アジア思想の影響や、相互の交渉にも留意するように努めた。Covid-19の感染拡大のため、2020年以降は十分な資料調査が難しく、国際会議における学術交流も大きく制限された。そうした中でも研究成果を蓄積し、2023年のうちに論集を刊行する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本思想史の理解は、西洋近代的観点の影響を脱することが難しく、近世もその傾向があった。実態に即した文化的伝統を理解するためには、宗教思想の把握がカギになるという指摘が近年なされていたが、何に注目すべきか迷走が続いていた。本研究では近代の文化人たちの理解も参照した上で、今まで隠れていた近世仏教や神仏習合思想の著作や思想家を対象とした調査と分析を進めた。思想史はもとより歴史学、民俗学、文学など複数の観点から総合的に検討し、国内外の学会等で報告し議論する段階に進んだといえる。その成果について、外国人の研究分担者2名の協力を得て、和文だけでなく英文でも論考として報告することが出来た。

研究成果の概要(英文)：Early modern Japanese thought has long been examined primarily in terms of Confucianism and Kokugaku. However, it is now believed that religious thought, including Buddhism and Shinto/Buddhist syncretism, actually played a major role. In order to elucidate the inner reality, we actively conducted surveys of temple materials and presented and discussed reports based on the results at domestic and even international academic conferences. Due to the spread of Covid-19, it has been difficult to conduct sufficient material research after 2020, and academic exchange at international conferences has been greatly restricted. Despite these difficulties, we plan to accumulate research results and publish a collection of papers in 2023.

研究分野：日本近世思想史

キーワード：東照宮 天海 檀家制度 即身仏 伊勢神宮 檀林 聖徳太子信仰 阿部次郎

1. 研究開始当初の背景

私は、国家と宗教の関係に関心を持ち、徳川家康が神格化され日光東照宮に祀られた事件を中心に、東照宮を支えた輪王寺門跡と近世天台宗教団、彼らが展開させた近世天台教学や山王一実神道などについての研究成果を蓄積してきた。また、近世中期以降の展開として『大成経』、戸隠修験、霊宗神道などの研究を推進してきた。

東照宮は、中世に展開した仏教や神道をもとに、徳川将軍家が作り上げた近世的国家祭祀の頂点を形成した。「社会の共有する観念と結びついている神観念と一体化ないし混合したものが、君主の全体像をなしている」(深谷克己)という指摘に従うなら、神格化された徳川家康(=東照権現)の造型には、近世社会の様々な時期・地域・位相の観念が反映されているといえる。その在り方の解明を手掛けることによって、日本近世社会の精神世界(尾藤正英のいう「国民的宗教」)の構造が、キリスト教等に対抗する「仏国・神国」という形で明らかになってきた。さらに、東照権現信仰を創出した天海(1536-1643)の教えを奉じる一群の思想家が近世中期以降に現われたことや、彼らの一定の影響を解明した。そのように、神道と仏教の結合から成る近世社会の精神世界は、現代に至るまで日本の思想や文化に多大の影響を与えていると考えられる。

同時に見えてきたのが、東アジア世界の関連する動向である。東照宮信仰や神国思想の基盤となる日本近世の神仏習合思想は、宋代以降の諸教一致説や、朝鮮王朝時代の儒仏論争などを参照しつつ形成されている。しかしその主張は、しばしば著名な学僧ではなく、現在は無名に近い習合神道家(源慶安、依田貞鎮、潮音道海など)が担っていた。国学や水戸学の影響をうけた近代以降の学問体系の中では、彼らの存在に注目されることは乏しく、むしろ淫祀邪教の徒と貶められがちだった。近世の神仏習合思想は、いわば思想史上のミッシング・リンクとなっており、彼らの業績の解明は様々な波及効果をもたらすと思われる。

2. 研究の目的

東アジアの「近世」(ここでは通説に従い中国の宋代以降、朝鮮半島の朝鮮王朝以降、日本の江戸時代などとする)について、近年その同質性が強調され(小農自立、官僚制整備など)、思想分野においては朱子学が基盤を形成すると論じられる。その前提の上で、日本のみ朱子学以外(仏教)が国教的地位を占めたとする日本特殊論と、それに反対し日本においても儒教的「天」の観念がさまざまな要素を統合していた、と「儒教核」の政治文化を強調し東アジアの一体性を説く議論が存在する。中国の士大夫層、朝鮮の両班層、日本の上級武士の在り方を強調するなら上記の議論も成り立ちそうであるが、実際は疑問の余地が大きい。中国においても、清代の支配階層(満州族)などに根強い仏教信仰(ラマ教)が存在した。また中国・朝鮮ともに、庶民層や女性(後宮など)にまで目を広げれば、ずいぶん様相が異なるのではと思われる。「朱子学に塗りつぶされた東アジア近世」という学説は、ほころびつつあると言えるだろう。

日本思想史研究においても、近世思想のイメージは従来と大きく異なってきた。尾藤正英、大桑斉、末木文美士ら諸氏によって、儒教よりも仏教・神道の存在感に注目する論が現われ、広く認められるようになった。一方、中国や朝鮮の思想史研究は一時代前の日本と似て、哲学的方面への関心が高く、理気論や心性論を扱うものが主流である。1980年代以降の日本の研究者が開拓してきた「支配イデオロギー」あるいは「君主のイメージ戦略」の問題を扱うことで、新たな観点が生まれる余地は少なくないだろう。

以上のように東アジアの近世思想史について、日本思想史の立場から新たな全体像を切り拓く可能性が考えられる。研究史の乏しい近世中・後期の神仏習合思想の実態(国家祭祀から民間思想まで)を解明することは、研究史の欠落を埋める意義が大きい。さらに、問題関心を共有する研究者同志で、中国・朝鮮などの事例と比較検討し、日本の事例を相対化する議論の場を得ることに着手し、新たな研究の創造につなげたいと考えた。

まず、国内の関係史料の調査・研究を進めるにあたって、近世の寺院社会の実態解明と、そこに流通した教学や思想の調査・分析を実施する。さらに、それを複合的視点から検討するために、近世の諸教一致説や神仏習合説に特化した研究会の立ち上げや国際会議への参加を何度か実施し、さまざまな研究者との相互交流の場を設けたいと考えた。

3. 研究の方法

近世宗教の実態解明を目指し、寺院史料の調査を行った。対象として、成菩提院(滋賀県米原市)、善明寺(東京都府中市)を考えていたが、はコロナ禍のため今後の課題にとどまっている。については、住職のご理解と研究分担者の協力を得て、研究期間内に少人数ながら数回の調査を行うことが出来た。現在、目録データのとりまとめを進めている。

次に、近世に作成された各地の習合神道書の調査も実施した。コロナ禍の種々の規制の合間を縫って、神宮文庫が所蔵する霊宗神道書(『大成経』関連書)数点を収集することが出来たが、

本格的な分析は、今後の課題である。

以上の他、研究分担者は各自独自の調査・研究を通じ、本科研の目的達成のため活動を行った。それらの成果をも含め、国内外での成果報告を進め、現在も継続中である。

4. 研究成果

研究代表者が実施し、研究分担者の一部も参加した活動の成果報告として、以下が挙げられる。
(1) オランダのライデン大学において、2018年に数名規模の準備会的位置づけで"Thought and Religion in Early Modern Japan"、翌2019年には規模を拡大して"Religion in the Age of the Book: Changing Relations between Shinto and Buddhism in Early Modern Japan"と題するシンポジウムを開催し、欧州圏の研究者との学术交流を行った。その内容を元に、現在論集を編集している(校正段階)。

(2) インドネシアにおいて、“International Symposium and Workshop on Japanese Studies”と題するワークショップを2回開催し(2018年 Surabaya, 2019年 Denpasar) 同国を中心とするアジア圏の研究者との学术交流を行った。

(3) 米国において Conference of the Association for Asian Studies (AAS) の年次大会に2回参加し、パネル報告を行った(2019年 Denver, 2021年 Virtual)。2019年は北米の研究者および図書館関係者との交流を実施し、帰国の途次にカナダのプリティッシュ・コロンビア大学においても教員・大学院生と交流の機会を得た。2019年のパネル報告については、査読を経て International Journal of Buddhist Thought and Culture Vol.30 No.1 (2020.6) に掲載された。

(4) オーストリアの科学アカデミーが2018年に開催したシンポジウム“Control, repression, and tolerance in early modern Japanese religion”に研究代表者が参加し報告を行った。その内容は、シンポジウムを書籍化した“Religion, Power, and the Rise of Shinto in Early Modern Japan.” London; Bloomsbury(2021) に収録された。

(5) 2019年に中国・北京において開催された、北京日本学研究センター・国際日本文化研究センター・中国教育部国別と区域研究基地日本研究センター共催「天皇制と日本 歴史、政治、社会、文化との関わりをめぐって」シンポジウムに研究代表者が参加し報告を行った。その内容は、『日本学研究』32(2022年)に収録された。

(6) 2020年に第19回日本仏教総合研究学会学術大会(オンライン)におけるシンポジウム「作られた近世仏教イメージを見直す」において、趣旨説明・司会・報告などを分担した。その内容は『日本仏教総合研究』19(2021年)に収録されている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 曽根原 理（著） 龍娜（訳）	4. 巻 32
2. 論文標題 豊臣秀吉、徳川家康の神格化と“徳川王権論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本学研究 北京日本学研究中心	6. 最初と最後の頁 65-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 曽根原 理	4. 巻 1017
2. 論文標題 近世史部会 上野大輔 近世前期の宗派紛争と政教関係 石原和 近世後期名古屋の宗教動向と如来教（2021年度歴史学研究会大会報告批判）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 38-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大川 真	4. 巻 64
2. 論文標題 Eighteenth- and Nineteenth-Century Debates on Female and Female-Lineage Emperors	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 紀要（哲学） 中央大学文学部	6. 最初と最後の頁 19-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 SONEHARA Satoshi,UMEDA Chihiro,Christopher MAYO,SERIGUCHI Mayuko,HOZAWA Naohide .	4. 巻 30(1)
2. 論文標題 Religious Transformations in Early Modern Japan: Relationships Between the State, Religious Organizations and Communities .	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Buddhist Thought & Culture	6. 最初と最後の頁 39-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.16893/ijbtc.2020.06.30.1.39	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 HOZAWA Naohide	4. 巻 30(2)
2. 論文標題 State Control and Administration of Buddhist Sects Through Autonomy Within the Socio-political Context of Early Modern Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Buddhist Thought & Culture	6. 最初と最後の頁 227-252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.16893/ijbtc.2020.12.31.2.227	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大川 真	4. 巻 3
2. 論文標題 尊王攘夷運動と天皇の「祈り」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良県立大学ユーラシア研究センター「近世・近代の思想研究会」調査研究レポート	6. 最初と最後の頁 15-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大川 真	4. 巻 20
2. 論文標題 第一次世界大戦終了百年後から改めてデモクラシーの本義を問う - 書評『吉野作造と柳田国男 - 大正デモクラシーが生んだ「在野の精神」』（田澤晴子）・『吉野作造と上杉愼吉 - 日独戦争から大正デモクラシーへ』（今野元）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 政治思想研究	6. 最初と最後の頁 412-415
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 モリス・ジョン	4. 巻 14
2. 論文標題 上田秋成の即身仏と木食の理解 - 『春雨物語』の二世の縁と『肝大小心録』を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本文化研究	6. 最初と最後の頁 101-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大川 真	4. 巻 34
2. 論文標題 正義の再生を目指して - 李退溪思想が持つ可能性を考える -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 退溪学論叢	6. 最初と最後の頁 65 - 86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大川 真	4. 巻 51
2. 論文標題 一八世紀の「朝鮮問題」について - 新井白石を中心に -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本思想史学	6. 最初と最後の頁 38 - 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 曾根原 理	4. 巻 83
2. 論文標題 東照宮祭祀から見る日本近世宗教	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 史潮	6. 最初と最後の頁 17-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 曾根原 理	4. 巻 46-16
2. 論文標題 権現様の「仏国」「神国」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 198-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朴澤 直秀	4. 巻 99
2. 論文標題 近世における「越前四箇本山」とその教団	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 桜文論叢	6. 最初と最後の頁 114-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件 (うち招待講演 11件 / うち国際学会 21件)

1. 発表者名 HOZAWA Naohide
2. 発表標題 The Regulation and Control of Buddhist Temples in Early Modern Japan
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 John MORRIS
2. 発表標題 Mokujiki Institutions and Affiliations in Pre-Modern Japan
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 John MORRIS
2. 発表標題 Early Modern Mokujiki Practice: Travel, Materiality and Modernization
3. 学会等名 Online Symposium "Travel in a modernizing world (1700-1840): Materiality, Transformation and Representation"
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 John MORRIS
2. 発表標題 Redescribing medieval cosmology: a comparative study of Japanese and Western European hagiography
3. 学会等名 比較文明学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大川真
2. 発表標題 1848年改正オランダ王国憲法における王位継承条文の訳出
3. 学会等名 日本思想史学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大川真
2. 発表標題 「人の移動と境界・権力・民族」討論者
3. 学会等名 第66回SGRA-Vフォーラム 第6回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性 「人の移動と境界・権力・民族」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SONEHARA Satoshi
2. 発表標題 The Re-Emergence of Enryakuji and the Re-Organization of Jobodai-in as a Detached Cloister .
3. 学会等名 2021 Conference of the Association for Asian Studies . (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 HOZAWA Naohide
2. 発表標題 Revenue Flows and Sectarian Structures in Early Modern Buddhism
3. 学会等名 2021 Conference of the Association for Asian Studies. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 John MORRIS
2. 発表標題 Sokushinbutsu, Literature, Popular Culture and Pilgrimage
3. 学会等名 International Research Workshop "Mutual Images" (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 曾根原 理
2. 発表標題 中世神話と近世神話-聖徳太子信仰をめぐって (The Cult of Prince Shotoku: Medieval and Early Modern Myths)
3. 学会等名 Symposium "Religion in the Age of the Book: Changing Relations between Shinto and Buddhism in Early Modern Japan" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根原 理
2. 発表標題 仏教から生まれた神国思想-日本近世における「両部神道」の創出- (A Buddhist Concept of the "Land of the Kami": The Birth of Dual Aspect Shinto in Early Modern Japan)
3. 学会等名 The 2nd Indonesia Japan Scientific Forum "International Symposium and Workshop on Japanese Studies" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根原 理
2. 発表標題 徳川王権論の現在
3. 学会等名 「天皇制と日本 歴史、政治、社会、文化との関わりをめぐって 」 学術シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 朴澤 直秀
2. 発表標題 寺檀制度をめぐる偽法令 (Forged Decrees and the Temple Registration System)
3. 学会等名 Symposium"Religion in the Age of the Book: Changing Relations between Shinto and Buddhism in Early Modern Japan" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 朴澤 直秀
2. 発表標題 日本近世の仏教教団をめぐる諸制度とその背景
3. 学会等名 2019年度東国大学校仏教文化研究院HK研究団秋期国際学術大会「東亜細亜近世仏教伝統の形成 」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大川 真
2. 発表標題 幕末の尊王思想はなぜ過激主義化したのか：天皇の宗教的権威をめぐって (Why did "Revere the Emperor" turn into extremism in the Bakumatsu Period? The Religious Authority of the Emperor)
3. 学会等名 Symposium"Religion in the Age of the Book: Changing Relations between Shinto and Buddhism in Early Modern Japan" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大川 真
2. 発表標題 18・19世紀における女性天皇・女系天皇論
3. 学会等名 渥美国際交流財団関口グローバル研究会主催「第4回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性円卓会議」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Morris Jon
2. 発表標題 Understandings of Sokushinbutsu Among Late Edo Period Literati : Focusing on “ The Destiny that Spanned Two Lifetimes ” in “ Tales of the Spring Rain ”
3. 学会等名 The 2nd Indonesia Japan Scientific Forum “ International Symposium and Workshop on Japanese Studies ” (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根原 理
2. 発表標題 {ノ+偏}無為研究の意義と現状
3. 学会等名 Symposium "Thought and Religion in Early Modern Japan" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 曾根原 理
2. 発表標題 日本近世の神国思想と東照宮
3. 学会等名 The 1st Indonesia-Japan Scientific Forum, International Symposium on Japanese Studies (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sonehara Satoshi
2. 発表標題 The dispute on myojin/gongen titles and the Tokugawas' concept of "divine country"
3. 学会等名 International symposium on Japanese religious history "Control, repression, and tolerance in early modern Japanese religion" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sonehara Satoshi
2. 発表標題 A "Divine Nation": The Formation of Early-Modern Thought
3. 学会等名 2019 Conference of the Association for Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hozawa Naohide
2. 発表標題 The Temple Registration System :Conventional Wisdom and Forged Laws
3. 学会等名 2019 Conference of the Association for Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大川 真
2. 発表標題 水戸学はなぜ幕末の志士たちを惹きつけたのか
3. 学会等名 Symposium "Thought and Religion in Early Modern Japan" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大川 真
2. 発表標題 18世紀の「朝鮮問題」について - 新井白石を中心に -
3. 学会等名 日本思想史学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大川 真
2. 発表標題 『読史余論』における南北朝論
3. 学会等名 「歴史の文体」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Jon Morris
2. 発表標題 A Comparative Perspective on the Social Role of the Sokushinbutsu
3. 学会等名 The 1st Indonesia-Japan Scientific Forum, International Symposium on Japanese Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Jon Morris
2. 発表標題 即身仏に見る日本仏教の特性
3. 学会等名 日本仏教学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Seriguchi Mayuko
2. 発表標題 Questioning Doctrines:The Populace and Flows of Religious Knowledge
3. 学会等名 2019 Conference of the Association for Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Bernhard Scheid,Nam-lin Hur,Sonehara Satoshi,Carla Tronu,Jacqueline I. Stone,Kate Wildman Nakai,Inoue Tomokatsu , W.J. Boot,James McMullen,Hayashi Makoto,Mark Teeuwen ,Stefan Koeck,Brigitte Pickl-Kolaczia,Yannick Bardy,Anne Walthall	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Bloomsbury	5. 総ページ数 287
3. 書名 Religion, Power, and the Rise of Shinto in Early Modern Japan	

1. 著者名 日本思想史事典編集委員会編, 大川真・曾根原理ほか分担執筆	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 718
3. 書名 日本思想史事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	朴澤 直秀 (HOZAWA NAOHIDE) (70377696)	東洋大学・文学部・教授 (32663)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大川 真 (OKAWA MAKOTO) (90510553)	中央大学・文学部・教授 (32641)	
研究分担者	モリス ジョン (MORRIS JON) (50774163)	大東文化大学・外国語学部・准教授 (32636)	
研究分担者	大島 薫 (OSHIMA KAORU) (50319604)	関西大学・文学部・教授 (34416)	
研究分担者	C H R I S T O P H E R M A Y O (MAYO CHRISTOPHER) (00741919)	皇學館大学・文学部・教授 (34101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 Symposium"Religion in the Age of the Book: Changing Relations between Shinto and Buddhism in Early Modern Japan"	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 The 2nd Indonesia Japan Scientific Forum "International Symposium and Workshop on Japanese Studies"	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Symposium"Thought and Religion in Early Modern Japan"(Leiden University,Nederland)	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------